

きずな

2008年 2月21日

NO 686

赤旗井原出張所

井原市井原町103 (TEL 62-6200)

相次いで市議会特別委を開催

井笠保健所長や福山市民病院長を招き

1月30日午後1時半から、井原市役所の市議会委員会室で、井原市議会第4回地域医療等を考える調査特別委員会（乗藤委員長）が開催されました。

今回は、則安俊昭井笠保健所長を招いて、第5次岡山県保健医療計画の素案について全体計画の説明を受け、特に井原市が含まれる県南西部保健医療圏の診療体制や医師の現状などを、資料に基づいて重点的に説明を受けました。説明のあと8委員から井原の医療や井原市民病院の医師不足を何とかしたいという気持ちから、質問や要望が活発に出されました。

保健所長の話の中で、医師確保について県の考えは一定示されましたが、それでは井原市民病院の医師確保と言うことになれば、なかなか大変だなあという感想を抱きました。しかし、話の中でご示唆もいただきましたので、引き続き市民のための地域医療はどうあるべきかを模索していかなくてはならないと思っています。

また、13日10時から12時30分まで井原市議会委員会室で、井原市議会第5回地域医療等を考える調査特別委員会が開催されました。講師は、福山市民病院の浮田実院長でした。テーマは自治体病院の現状と生活医療圏—医療体制の移行期—でした。

大きい項目は（1）問題の背景（2）医療改革の方向（3）厚生労働省による「平成20年度（新）地域医療計画」の誘導（4）総務省による「公立病院改革ガイドライン」平成19・12・24自治財政局長通達（5）自治体病院はどう生き抜くかについて話されました。

現在の医療情勢、厚労省や総務省の書計画に対する、深い洞察力に基づいた国の考え方の紹介、今後、自治体病院の模索する道やとるべき方法などが、講師の豊富な知識と実践に基づいて縦横に語られました。話の中で「医療というのは人間対人間なんだ」「市民病院をどうするかが前面に出るのではなく、医療資源全体を見て、地元医師会がどこまでやれるのかを、医師会と徹底的に話し合い、先ずそれを掴むことが重要だ」「核となる診療科を設置すべきだ」という言葉が印象的でした。全体を通して、地域医療をどうして行くのかについて多くの示唆をいただいたと思います。

この特別委員会はこれまで様々な角度から講師を招いて、地域医療をどうするかを考えてきましたが、13日の会議で、6月議会までに中間報告（まとめ）ができるようにすることを委員全員で確認しました。



則安井笠保健所長を招いて県下の医療情勢を聞く委員ら



自治体病院の現状と生活医療圏をテーマに話す浮田福山市民病院長（こちら向き）



ふれあいセンターまつり

制作メンバー

部長	唐木優衣	花岡夕貴
副部長	宮田詩絵	藤本美雪
	葛間有沙	村上聖夏
	池田紫央	藤井虹羽
	渡辺美代	高橋里麻
	田島和子	村上侑奈保
	妹尾麻衣	田島 直
	三田 愛	高村正義
	榎原明徳	花岡叶光
	小林 歩	石田彩華
	小寺菜摘	片岡惠梨
		前田篤樹
		多賀仁美



写真説明

上左：人権標語の最優秀賞

上右：作品を鑑賞する入館者

写真左とその右：木之子中学美術部共同制作の模写絵と制作メンバー

10日に井原市神代町の井原市ふれあいセンターで「ふれあいセンターまつり」が開催され、多くの人が来場しました。このまつりは、荏原、木之子、県主、稲倉、出部、野上の6公民館やセンターの各講座の生徒、市内の福祉施設の利用者などが絵画や書、生け花、写真など約500点を出品しており、来場者は作品を熱心に鑑賞していました。

井原市政に対するご意見・ご要望をお寄せください。

3月3日(月)が井原市議会3月定例会の開会予定日です。3月議会は、新年度の予算案が上程される重要な議会です。この議会に向け、現在、皆様の声を聞きながら質問の準備をしています。

皆様のご意見・ご要望が1つでも多く実現するよう奮闘したいと考えています。皆様の井原市政に対するご意見・ご要望をお近くの党員か下記の電話等にお気軽にお寄せください。

- 日本共産党後援会事務所 TEL 62-6200 FAX 62-6209
- 森本ふみお宅 TEL 62-6061 FAX 62-6081
- 石井 敏夫宅 TEL 62-4667 FAX 62-4726